

# 第2学年1組 生活科学習指導案

日 時 6月30日(月) 13:25~14:10  
場 所 2年1組教室  
授業者 梅津 奈保美

1 単元名 きらきら町たんけん

2 単元の目標

町探検を通して、町の「ひと・もの・こと」に繰り返し関わり、そのよさに気付きながら、自分の思いをもつて町の「ひと・もの・こと」に進んで触れ合おうとする。

3 指導にあたって

(1) 児童について

進級したばかりの4月、2年生の生活科の学習について話し合うと、「町探検がしたい」という声が上がった。「1年生では学校を探検して第三小学校を研究したから、今度は町を探検して研究したい」というA男の発言をきっかけに、「確かに、第三小学校の周りの町でも、行ったことがないところがいっぱいある。」「そこはどうなっているのかな。」「私は町の人たちとたくさん話がしてみたい。」と少しずつ町探検に対する思いを話し始める子どもが出てきた。そこで、自分が知っていることを伝え合う時間を設けると、友達と情報を交換する中で、「畑があるなんて知らなかった。」「あのお店には何が売っているのかな。」「働いている人は、どんな仕事をしているのかな。」などと、探検に対する思いをさらに深めている姿が増えてきた。このように自分たちの住む第三地区について、「もっと知りたい」という興味・関心を大切にしながら、まずは地域の「もの・こと」に着目して探検を繰り返す。そこから、次第に地域の「ひと」にも着目できるようにし、最終的にはそれら全てに対して親しみや愛着をもつことができるようにしていきたい。

(2) 教材について

本単元は、生活科の内容(3)「地域と生活」(8)「生活や出来事の伝え合い」を中心に構成している。子どもの生活の場は入学してから徐々に、自分の家やその周辺から通学路や学校へと少しずつ広がっていく。町探検を通して自分の行きたい場所を訪ねることは、様々な「ひと・もの・こと」に出会うことができるよい機会である。町探検を繰り返して様々な「ひと・もの・こと」と関わり、それらに対して自分なりの思いや考えをふくらませたり新たにもらったりした子どもたちは、相手に伝えるために、その方法を工夫しながら交流へと学習を広げていくであろう。このように本教材は、自分の住む地域に繰り返し関わりながら、自分の思いや考えをもち、目的や相手に合わせた方法で互いに交流できる教材である。

(3) 指導について

第一次では、自分たちの住む第三地区を学級集団で散策する活動を繰り返す。散策した後は、自分の気付きと友達の気付きを共有する活動を取り入れ、これまで何気なく見ていた景色や町の「ひと・もの・こと」について、「もっと知りたい。」「もっと関わりたい。」という肯定的な思いをもつことができるようにしていきたい。

第二次では、第一次での体験を基に、「さらに詳しく調べたい。」と考える場所を決め、調べたい場所が同じ友達とグループをつくり、町探検を繰り返す。町探検後には、自分の気付きについて、学級の友達と伝え合う活動を第一次と同様に繰り返す。そうすることで、第一次では知り得なかった情報や、町の「ひと・もの・こと」への新たな気付きをより具体的に友達と共有することができるようになると考える。さらに、この伝え合う活動から、これまで関わってきた町の「ひと・もの・こと」への思いを自分なりに整理し、これからはどのように第三地区の「ひと・もの・こと」と関わっていきたいか考えることができるようにしていく。

第三次では、これまでの町探検を振り返り、自分の気付きを友達と共有してきたことを踏まえ、町の「ひと・もの・こと」への感謝を考える機会につなげたい。そのために、これまでに自分が気付いたことを誰に伝えれば町の人への感謝につながるのか考えることができるようになる。その子どもの思いを基に、町の人への感謝を伝える会を設定する。自分の身近な人(学年の友達や先生方、地域の方、保護者等)に、町の人の素敵な姿や思いを広めることで、子ども自身が「もっと町の人のために～したい」という肯定的な思いを今後も継続してもつことができるようにしていきたい。

## 4 単元の評価規準（総時数 32 時間）

### (1) 単元の評価規準

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	町探検を通して、自分の生活が、町の「ひと・もの・こと」と関わっていることが分かっている。	町探検を通して、町の「ひと・もの・こと」について考え、表現している。	町探検を通して、町の「ひと・もの・こと」に親しみや愛着をもち、進んで触れ合おうとしている。
小単元の評価規準	<p>① 学級単位での町探検を通して、学区内の施設や場所について分かっている。</p> <p>② グループでの町探検を通して、町には素敵な「ひと・もの・こと」があると分かっている。</p> <p>③ 町探検を通して、自分の生活には町の素敵なもの・こと」が関わっていることに気付いている。</p>	<p>① 普段の生活や登下校を思い返し、学校周辺の施設や場所について考えている。</p> <p>② グループでの町探検を見通しながら、これまでの経験も踏まえて質問したいことを決めている。</p> <p>③ これまでの町探検を通して町の素敵なもの・こと」を、自分なりに考えている。</p> <p>④ 町の素敵なもの・こと」に対して、自分が今できることを考えて表現している。</p>	<p>① 学級探検から、自分の学区にある施設や場所について調べることに期待感をもっている。</p> <p>② グループでの町探検を通して分かった町の素敵な「ひと・もの・こと」を、友達に進んで伝えようとしている。</p> <p>③ 町探検を通しての気付きを、伝えたい相手を選んで進んで表現し、交流しようとしている。</p>

### (2) 指導と評価の計画

小単元(時数)	学習活動(時間)	知	思	態
きらきらけんきゅう 町たんけん (14)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の周りには何があるかな (1)</li> <li>・学級のみんなで探検してみよう (校外学習①～④) (12)</li> <li>・見付けたことを伝えたいな (本時 1)</li> </ul>	① ① ①	① ① ①	
きらきらふれあい 町たんけん (14)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○○を調べたい (1)</li> <li>・きらきら町探検を計画しよう (1)</li> <li>・きらきら町探検ヘレツツゴー (校外学習⑤) (2)</li> <li>・素敵な○○！ (3)</li> <li>・もっと知りたい！第三地区 (2)</li> <li>・きらきら町探検ヘレツツゴー (校外学習⑥) (2)</li> <li>・素敵な○○！！ (3)</li> </ul>		② ② ② ②	① ② ② ②
わたしたちの町に… (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしたちの町にできることは何かな (1)</li> <li>・伝えたい素敵な○○ (2)</li> <li>・伝えたい素敵な○○交流会 (1)</li> </ul>		④ ③ ④	③ ③ ③

## 5 本時の計画

### (1) 本時のねらい

これまでの町探検で発見した発見したことを振り返り、素敵だと感じた「ひと・もの・こと」の中から自分のお気に入りについて自分の言葉で表現することができる。

### (2) 本時の終末に予想される子どものつぶやきと本時の手立て

#### 【予想されるつぶやき】

「私は□□が一番のお気に入りです。どうしてかというと、…だからです。もう一度行って詳しく調べてみたいのです。」

### 子どもを本気にさせるゆさぶり

これまでの4回のおさんぽ探検の写真から数枚を提示し、場所やその時に気付いたことを話合う場を設定する。子どもたちの言葉を板書することによって、町には今まで気付かなかった「すてき」がたくさんあったことを可視化して再確認する。子どもたちの気付きを称賛し、「第三地区に住む人たちは、こんな「すてき」がたくさんあるって知っているのかな。」と発問することにより、「知ってるでしょ。」「ぼくはあのベンチに初めて座ったから、まだ知らない人もいるんじゃない。」「お母さんは、○○って知らなかつたって言ってたよ。」「どっちなんだろう。」など、子どもたちの思いを引き出す。その上で、子どもたちにどうしたいか問いかけ、「家の人に」「すてき」があるって教えたい。」「家人の人ともう一度行ってみたい。」「またプロに会いたい。」などの思いを取り上げて話合うことで、子どもが「自分のお気に入りの『すてき』」について本気で考えるきっかけとしていきたい。さらに友達と考えを交流する場を設定することで、自分なりの気付きのよさを確かなものにし、自分の言葉で話すことができるようにしていきたい。

### 子どもが「自分らしい」に気付く価値付け

「自分での『すてき』」を友達と交流する場では、教師もその中に入り子どもの話を熱心に聞く。「なるほど。」「あそこは○○だったね。」「確かに。先生も気持ちよかったです。」などと共感する言葉をかけたり、「どうしてそう思ったの。」「○○っていうことなのかな。」などと子どもの思いをはっきりさせるための言葉をかけたりすることで、子どもが徐々に自分の思いを明確にし、言語化できるようにしていく。その上で「自分での『すてき』」について表現することができるようにしていく。

### (3) 指導過程

学習活動・内容	時間形態	○指導上の留意点 ◆本時の重点 ※評価
1 本時の問い合わせをもつ  第三地区で見つけたお気に入りを教えていな。	10 (一斉)	◆ これまでの探検の写真から数枚を提示し、「すてき」と感じたことについて板書していく。「町の人は知っているのかな。」と発問することで子どもたちの思いをゆさぶり、自分たちの見つけた「すてき」を町の人に伝えたい気持ちを高める。 ○ 友達の思いを自分の思いと比べながら聞くことで、「同じ発見でも、『すてき』はいろいろあるんだな。」という思いを共有し、「もっと話したい」「聞きたい」思いを高めていく。 ○ これまでの町たんけんでまとめた大型地図を掲示したり、各自で探検カードやタブレットを用意したりすることで、自分の気付きを具体的に話すことができるようになる。 ○ 友達の話を聞いて気付いたことや考えたことを伝えたり質問したりしている姿を称賛することで、自分の考えを広げていくことができるようになる。
2 第三地区の「すてき」について友達と伝え合う。  (例 すてきな「場所」) ・ 赤コースのお散歩コースがよかったです。木がいっぱいですしあつたね。 ・ 緑コースも木がいっぱいあって、落ち着くよね。  (例 すてきな「人(プロ)」) ・ ゴミ収集車のお兄さんが、大きなゴミを一人で片付けてたのがすごかったね。きれいにしてたね。 ・ 競馬場の前で草むしりをしている人のおかげで、みんなにきれいな花を植えられるんだね。  (例 すてきな「もの」) ・ どのコースにも地図があったよ。みんなにいろいろ教えてくれてるね。 ・ バス停に屋根があって、おじさんが涼しいって言ってたよ。	20 (個人・グループ)	◆ 交流の中に教師も入り、子どもに共感する言葉をかけたり、思いを言語化するのを補助したりすることで、子どもが自分での思いを確かにしながら伝え合うことができるようになる。  ※ これまでの町探検で発見した発見したことを振り返り、お気に入りの「ひと・もの・こと」について自分の言葉で表現している。（発言・カード）

3 本時の学習を振り返り、探検で素敵だと感じた「ひと・もの・こと」について自分の考えをカードに書く。

15  
(個人)

○ 本時の活動を振り返ることで、探検で発見した第三地区の「すてき」を確かめるとともに、これからどうしていきたいかについても考えさせることで、新たな探検へつなげていくようにする。

#### (4) 板書計画等

